

石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会 設立趣旨

石狩川は、その源を大雪山系の石狩岳に発し、層雲峡、上川盆地を経て石狩平野に入り、雨竜川、空知川、幾春別川、夕張川、千歳川、豊平川等の多くの支川を合せ、日本海にそそぐ我が国屈指の大河であり、全国二位の面積を誇る石狩川流域には、数多くの中小河川や後背湖沼、旧川、遊水地、ラムサール条約湿地に登録された国際的に重要な地域等、多様な水辺環境を有しています。それらは魚類や鳥類等をはじめとした数多くの生物の生息環境であり、石狩川流域に暮らす人々の大切な財産です。これまで石狩川流域では、河畔林等の樹林環境の保全・再生や、「石狩川下流自然再生計画」に基づく当別地区や幌向地区における自然再生等の取組を進めてきました。

近年、気候変動とともに、生物多様性に関する注目が高まっており、自然環境が有する多様な機能を生かし強靱で持続可能な国土の形成に資するグリーンインフラの整備や、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ生態系ネットワーク形成の取組が全国各地で進められています。これらの取組は、生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブの実現に資するものです。森や里山、農地、都市、海などを連続する空間として繋ぎ、治水・利水・環境を担う河川と連携した地域づくりは、行政・民間事業者・市民など多様な主体が参加し、よりよい流域社会を創造するために統合的にアプローチする時代を迎えています。

こうした背景を受けて、多様な主体の連携と協働のもと、健全な生態系ネットワークの形成に取り組み、生物生息環境を保全・再生するとともに、野生生物と地域生活・産業の両立を図り、豊かな自然資本の持続的な活用による地域振興・経済活性化を実現するための方策の検討と取組の推進を目的として、「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」を設立いたします。